

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4170100459
法人名	有限会社ライフシップ
事業所名	嘉瀬紀水苑
訪問調査日	平成20年3月20日
評価確定日	平成20年3月26日
評価機関名	

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100459
法人名	有限会社ライフシップ
事業所名	嘉瀬紀水苑
所在地	佐賀県佐賀市嘉瀬町大字萩野698 (電話) 0952-29-8807

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年3月20日	評価確定日	平成20年3月26日

【情報提供票より】(平成20年3月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	4 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 7.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート瓦葺平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	日額 800円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800	円	

(4) 利用者の概要(3月3日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	82 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	諸隈病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯の幹線道路沿いの木造平屋建ての建物である。建物内部は、天窓から差し込む自然光や利用者の作品なども飾られ、穏やかな雰囲気を感じられる。職員も利用者も落ち着いた家庭的な雰囲気で生活されている様子が窺える。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者および職員は、全員で改善課題について話し合い、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者および職員は、数回の話し合いをして自己評価を行い改善項目を抽出するなど、自己評価および外部評価の意義を理解した取り組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催され、地域の方、家族、地域包括支援センター職員、校区社会福祉協議会会長などに参加を呼びかけ、外部評価、行事予定などの報告が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に「意見箱」を設置しているほか、年1回の家族会で意見や要望、不満や苦情を聞く機会を持ち、運営に反映している。重要事項説明書でも苦情受付機関として行政機関をはじめ他の受付機関を説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	イベントのお知らせや案内は校区の公民館長、民生委員、自治会長、地区の方には必ず配布し、参加を呼び掛けている。消防署の防災講話に地域の方にも案内し、参加してもらったり、お汁粉会に地域を始め子供クラブにも呼び掛け参加してもらうなど、日常的に交流の機会を持ち地域との連携に取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念「楽しく」「なごやか」「すこやか」を職員で話し合い、平成19年6月より地域密着型としての役割を踏まえた理念として『家庭的な雰囲気環境と地域の方との交流の中で、「楽しく」「なごやか」「すこやか」をモットーに潤いのある生活、また、安心して、その人らしく暮らしていただけるよう支えていきます』を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に貼り出したり、毎月の苑だよりに掲載する他、毎朝と夕方の申し送り時や、ケアの場面場面で理念を確認し共有できるようにしている。		
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	消防署の防災講話に地域の方にも案内して参加してもらったり、地域の方との交流会として「お汁粉会」に地域の方、子どもクラブの方などにも案内し参加してもらっている。イベントのお知らせや案内は校区の公民館長、民生委員、自治会長、地区の方には必ず配布して参加を呼び掛けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、および職員は、全員で数回の話し合いをして自己評価に取り組んでいる。評価によって見出された課題の改善に向けた検討も行われている。	○	評価の一連の過程を通じて質の確保と向上につなげる為の話し合いが重ねられており、年に1回の評価の効果を高めるためにも改善計画シートなどを活用し、改善に向けた取り組みの状況や具体案のなど、一層の充実が期待される。
	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。地域の方、家族、地域包括支援センター、校区社会福祉協議会長などに参加してもらい、外部評価報告、年間行事予定・報告などを行い意見も頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや市の担当者に相談にのってもらっている。また逆に入所の相談などもある。広域連合等にはパンフレットを持参するなど連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	手作りの苑だよりを毎月発行し、家族に届けている。一人一人の健康状態やホームでの様子を個別に記入する欄や、色塗りは利用者自身にして貰うなど工夫されている。その他変化があったり、急変時は電話で報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を設置しているほか、年1回の家族会でも意見や要望、苦情や不満を出していただき運営に反映している。重要事項説明書でも行政機関他の苦情受付機関を説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は利用者と職員との馴染みの関係を重視し離職を必要最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修として事業グループの研修会に管理者および職員が出席しているが、内部研修としての研修は計画されていない。	○	各職員の経験や実践の習熟度等に応じて段階的に力をつけていけるような研修機会の一層の充実が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業グループの交流研修会や事例報告会、勉強会に参加して情報交換を行い、サービスの質の向上に反映させる取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設に馴染むことが心配な方は家族と相談しながら、1週間程度の体験入居や昼間に遊びに来ていただくなどして馴染みながらサービス利用ができるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	苑の畑では野菜づくりの肥料の与え方を教えてもらったり、収穫した野菜をともに喜んで食べたり、一緒に過ごし喜怒哀楽を共にしていく中で、お互いが支えあう関係作りができています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	近所の散歩や近くの森林公園へのドライブは頻繁に行っている。秋にはパルーン大会見物、春はひな祭り、温泉など利用者の希望にできるだけ対応するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中での気づきを基に本人、家族、関係者と話し合い、月例会議でスタッフ全員で意見を出し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	5～6か月での見直し時期以外でも状況の変化に応じて、家族やスタッフ、その他の関係者などで話し合いがもたれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や要望に応じて食事や買い物、行楽や行きつけの美容院への外出支援、盆正月の外出支援など行っている。また、協力病院と連携して、病院受診だけではなく、訪問診療や看護師の24時間相談体制がとれているほか、重度化、終末期の指針を整備し、入院の回避ができる体制をとっている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に馴染みのかかりつけ医の受診を継続している。本人、家族からかかりつけ医変更の希望があった場合は、事業所の特性に理解が得られる複数の医療機関と協力体制をとり、受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期における看取りの指針を定め、重要事項説明書に明記し、契約時に説明し同意を得ている。具体的な対応については、職員、家族、関係者、医師と十分に話し合い、方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについて勉強会で学び、一人一人の誇りやプライバシーを損ねるような言葉や対応、記録をしないように徹底し、確認し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れは決まっているが、日々の活動も一人一人の体調、気分などを考慮しながらいくつかの選択肢の中から選んでもらうなど、自発的意向を尊重して支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	苑の畑で獲れた野菜を用いて一緒に献立を考えたり、下ごしらえをしたりしている。食器洗い、拭き、布きん洗い、干しなどの片づけも一緒にしている。職員は利用者と同じテーブルでゆったりした雰囲気の中で食事を楽しみながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には一日おき昼間の入浴となっているが、お風呂を好まれない方に対しては、時間をずらしたり、声掛けの方法を変えたり工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴や力を活かした役割、楽しみごととして、裁縫、習字、食事のときの挨拶、食事の準備、後片付け洗濯物干しやたたみなど、できることへの支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや、天気の良い日は苑の畑へ出かけたり、散歩に出かけるなど、日常的に戸外に出かけるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関には鍵はかけず、利用者が出ていく気配を察知したら、さりげなく声をかけたり、一緒についていくなど安全面に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し緊急時連絡網を整備している。火災警報器及び消火器を設置している。運営推進会議で消防署に依頼して「災害対策について」の講話をしたところ地域の方の参加も6名ほど得られた。隣家の方には緊急時協力を得られるように働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の他、水分摂取量1000mlを目安に午前、午後、入浴後、活動後、寝る前など数回に分けて確保できるようにしている。献立は事業グループの栄養士に栄養素のバランスやカロリー計算のチェックを依頼している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	幹線道路に接しているが窓は二重サッシで騒音防止になっている。天窓より自然光が差し込みやさしい雰囲気を持っている。ホールや廊下の壁面には利用者で作った季節ごとの曆を飾るなどして季節感や家庭的な雰囲気を味わえる工夫が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への使い慣れた物等の持ち込みは自由であり、鏡台、タンス、イス・テーブル、飾り物など好みの物を持参されている。思い思いに居心地よく過ごせる部屋になっている。		